

文庫あれこれ◆GWは家の片付けだと思っていたら、思いがけず、突如出かけることに。午前中か

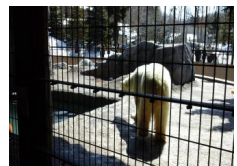
☆☆2017年の開館スケジュール☆☆

No. 129 2017年5月号



白山をバックに数十匹の鯉のぼりが泳いで・・・

主人と手分けして5泊確保。東名もさほどの混雑に非ず、で、まずは上々。秘湯めぐりにも飽きた主人、最近はお食楽。蒲郡クラシックホテルのメインダイニングのディナーはグーです。◆それから、NHK大河ドラマ「直虎」の虎松こと後の直政〜井伊直弼の居城のある彦根はよかったです。直弼の「埋木舎」の前に立ち待時を偲び、お城に入らず堀のまわりをぐるぐる散策。静かで（城の正面近くは混雑）、お城と水辺を共有している家々の佇まいの美しいこと、そこに住まう人々の温かいこと、出会う子どもたちの礼儀正しいこと、ゆったりとしたときを満喫。また、宿泊するビジネスホテルわきの東京で予約してきた割烹の魚貝が新鮮美味。◆白鳥高原では白山連峰が素晴らしく、夜は満天の星&流れ星。夫婦喧嘩もさほどせず、心に残る旅でした。◆申し訳ありません、今月は全くの個人話に終始して。◆ところで、4月に福岡のAさんに文庫便りを送ったら、何と彼らも1日違いで旭山動物園に行っていたそう。Tくん、Mちゃん元気の由。◆高3のSちゃんに、Oさんおススメの「ヒルクレストの娘たち」(同じ時代、環境を姉妹4人それぞれ



シロクマくん (17.4.1旭山動物園)

の視点から描いた)を紹介したら、意味深で楽しい反応。若いも若きも本を通して対話ができます。嬉しいですね。◆さあ、今月はどんな本との出会いが待っているでしょうか? よい季節です。(西村)

★開館日は通常は 第3日曜と前日の土曜です★

- ◆5月は**変則第2土日**を挟んで長めの開館 **12日(金)~16日(火)まで**
 - ★若葉のころのおはなし会★
 - 13日夕方5:15→大きい人向け
 - 今回は、会員の吉川仲子さんの朗読とおはなし沙羅のメンバーが頑張ります。ぜひ、聴きにおいでください。♥
 - 14日午前→小さい人向け
 - ゲスト:代田みち子さん(科学遊び)
 - 楽しいふしぎな科学遊び、親子で楽しんで! 手遊び・よみきかせもあります♥
 - ◆6月は通常17(土)、18(日)の両日
 - ◆7月は通常15(土)、16(日)の両日と
 - 16日夕「第17回海の日のおはなし会」(於:伊豆高原駅広場クスノキの下)
 - 17日午前「第11回開館記念子どものおはなし会」(於:沙羅の樹文庫)
 - ◆8月は通常第3土日を挟んで長めの開館 **18日(金)~22日(火)まで**
 - ◆9月は通常16日(土)、17日(日)

文庫の時間

土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時

- ★毎月開館日の日曜には、**子どものための小さなおはなし会**があります。
- 午前10:30~11:00
- ★おはなし沙羅の勉強会★
- 毎月開館土曜日11:00~13:00
- 読みきかせの練習・本選びの勉強にもどうぞ

駐車について:ご留意ください。駐車可能な場所:文庫駐車場3台・サウスフィールドさん(駐車場が空いているとき)・グラナダさんの屋外み時間(14:00~17:00)・文庫下2軒先左折行き止り道路:上記がらばいの場合、スタッフに声をかけてください。(沙羅の樹文庫)

沙羅の樹文庫 0557-51-3737

<http://www.saranokibunko.com>

沙羅の樹文庫だより

彦根城



若いとき、ひなげしのはなびらを通して輝く光に、心を奪われる時間があっただろうか。

(メイ・サートン「夢見つ深く植えよ」)・・・しみじみ感じるこの老境の日々ですね。

だいたい子どもというものは「親の目が、届かないところ」で育っていくんです。

(河合隼雄「Q&A こころの子育て」)

・・・確かに子どもたちは、気がつく、いいことも悪いことも、外で学んできましたね。

朝日新聞<折々のことば>から拝借しました。

2017年5月に読んだ本についての感想

2017.5.10 by 森林浴

伊豆・高浜・だより 外伝

『世界史としての日本史』半藤一利・出口治明著 小学館新書 2016年8月 第1版

歴史に関する読書の超人2人の縦横無尽の対話。文芸春秋社にいた半藤一利さんがかねてより歴史に関しては滅多にいない歴史超人であることは誰でも知っているでしょうが、新しい生命保険会社を作って経営する出口社長さんがこんなに歴史超人だとは知らなかった。要は日本の歴史だけでなく、世界の歴史をたっぷり読め、ということ。かつて我が文庫の読書感想文にアントニー・ビーヴァーの「第二次世界大戦 1939-45」を取り上げましたが、二人の超人がこれを推薦しているのにはわが意を得たりです、つい最近では司馬遼太郎「坂の上の雲」に関する渡辺京二の批判を取り上げたのですが、同じ批判が出てきますし、またかつて感想文で触れた記憶がある小熊英二「民主と愛国 戦後日本のナショナリズムと公共性」を出口さんが推薦図書に挙げられているなどもあって、楽しく読めました。

『シベリア抑留—スターリン独裁下、「収容所群島」の実像—』富田武著 中公新書 2016年12月1版

さすがは専門の学者の書いた本だなと感じ入る、しっかり事実関係を抑えた見事な著書。

序章「矯正労働収容所」——もともと1930年代のロシアのソヴェト政権時代に創設されたこの制度が問題の根源なのだ。社会主義革命に反対する国民を刑事囚にして矯正労働させるという伝統があり、1939年には200万人が矯正労働収容所に収監されたという。

第1章は日本の捕虜の歴史の前に、まずはヒトラー率いるドイツの捕虜がどのような目にあったかの歴史。最初

優勢だったドイツ軍は、一旦ソ連軍將兵335万人を捕虜とし、そのうち204万人が死亡したという。しかし後半では逆にソ連側が巻き返し、今度は162万人以上のドイツ軍兵士がソヴィエト軍の捕虜となり、ロシア各地で炭鉱・建設などの労働に従事させられたという。第2章が満州から移送された日本軍捕虜の話でこれが主役で一番長く、驚くほど広範囲に収容されていたのには驚く。第3章は「現地抑留」された民間日本人が対象で、北朝鮮・南樺太・千島にいた民間日本人がどうなったか、の話。終章はそれ以前の章に漏れた興味深い関連の物語。

『最後の秘境 東京芸大 天才たちのカオスな日常』二宮敦人著 新潮社 2016年10月第6版

これは奇想天外、想像を絶する芸大学生たちの行動の記録が次々に展開されて、読者は唖然・茫然ということになりましょう。上野公園の隣に、音楽が音大・美術が美大と呼ばれて、二つの学部が一つの大学・芸大になっていますが、とにかく常識を超越した学校と学生・教授です。軽快な筆致でよく事実を拾っていて、読むとなぜか愉快になります。

『動員時代—海へ』小川 国夫著 岩波書店 2013年8月第1版

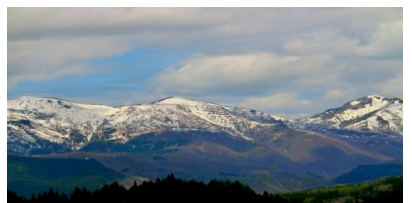
この小説の原稿は、著者が2008年に亡くなってから3年後の2011年頃に手書き原稿のコピーの状態で、自宅で発見され、未亡人が著者と親しかった河出書房の青木氏のもとに郵送して披露、青木氏の計らいで2013年に岩波書店から出版して本になった、小川の故郷—静岡県の用宗辺りを舞台にした自伝的な作品。小川国夫の好きな私には忘れられない1冊になりそうだ。

GWに夫さん、急に思い立って、車で旅に誘ってくれました。東京〜蒲郡〜芦原温泉〜彦根〜白鳥高原〜八塩温泉〜東京の5泊6日。通過県は、神奈川、静岡、愛知、岐阜、福井、滋賀、長野、群馬です。記憶に残る川だけでも、大井川、富士川、揖斐川、長良川、木曾川、九頭竜川、天竜川、千曲川、利根川、神流川...



海に浮かんでいるのは竹島。幾多のロケ地に使われた城郭風の蒲郡クラシックホテルはおすすめ。

↓下は彦根城外壁と、残雪の白山連峰。



17年5月に入った子どもの本

絵本

『おうさま』(ディック・ブルーナ著・イラスト 福音館書店 2017) ID12450
 『ボック』(ハリエット・ヴァン・レーク作 野坂悦子訳 朝北社) ID12442
 『マクドナルドさんのやさしいアパート』(ジュディ・バレット文 ロン・バレット画 ふしみみさお訳 朝北社) ID12433
 『ポッチャーン!』(フィリップ・子ランタン作 ふしみみさお訳 朝北社) ID12444
 『どうぶつにふくをきせてはいけません』(ジュディ・バレット文 ロン・バレット画 ふしみみさお訳 朝北社) ID12435
 『ケープドリとモンドリアンドリ』(ワウター・ヴァン・レーク作 野坂悦子訳 朝北社) ID12446
 『ケープドリーあらしのまき』(ワウター・ヴァン・レーク作 野坂悦子訳 朝北社) ID12447
 『ケープドリーはつめいのまき』(ワウター・ヴァン・レーク作 野坂悦子訳 朝北社) ID12448
 『ケープドリーケープタワーのまき』(ワウター・ヴァン・レーク作 野坂悦子訳 朝北社) ID12449
 『ドーム語りー未来への記憶』(アーサー・ピナード著 玉川大学出版部 2017) ID17049

よみもの

『ある日とつぜん、霊媒師 2 恐怖の空き家』『ある日とつぜん、霊媒師 3 呪われた504号室』(エリザベス・コーティ著 もりうちすみこ訳 朝北社) ID12452、12453※1は、すでに在庫

『さらわれたデービッド』(スティーブンソン作 岩波書店) ID12401

広瀬おばさんからの寄贈

絵本

『あしたから1ねんせい』(きむらゆういちさく 有田奈央 新日本出版社 2017) ID12434
 『ソウはおことわり!』(リサ・マンチェフ作 ユ・テウン絵 たなかあきこ訳 2016) ID12435
 『10人のきこり』(A.ラマチャンドランさく 田島伸二やく 講談社 2007) ID12439
 『3日ずつのおくりもの』(レミ・クルジョン作 こだましおり訳 文溪堂 2016) ID12437

よみもの

『江戸っ子しげそうータリメーだい!の巻』(本田久作作 ポプラ社 2016) ID12423
 『銀杏堂』(橘春香作・絵 偕成社 2016) ID12415
 『てんからどどん』(魚住直子作 ポプラ社 2016) ID12419
 『クラスメイツ』(森絵都著 偕成社 2014) ID12418
 『ド・ロ神父と出津の娘たち』(岩崎京子著 田代三善絵 パウロ文庫) ID12440
 『ミミとまいごの赤ちゃんドラゴン』(マイケル・モーバーゴ作 おびかゆうこ訳 徳間書店 2016) ID12412
 『のんびり村は大さわぎ!』(アンナレーナ・ヘッドマン作 菱木晃子訳 徳間書店 2016)

ID12411

科学絵本・読み物

『ヘレン・ケラーのかぎらない夢』(ドリーン・ラパポート文 マット・タヴァレス絵 もりうちすみこ訳 国土社 2014) ID12410
 『人と出会う場所ー世界の市場』(小松義夫写真・文 アリス館 2016) ID12409
 『カバのこどもーサバンナを生きる』(ガブリエラ・シュテプラー写真・文 たかはしふみこ訳 徳間書店 2017) ID12422
 『よむプラネタリウム 春の星座案内』(野崎洋子文 中島昭雄写真 アリス館 2017) ID12402
 『よむプラネタリウム 夏の星座案内』(野崎洋子文 中島昭雄写真 アリス館 2016) ID12403
 『よむプラネタリウム 冬の星座案内』(野崎洋子文 中島昭雄写真 アリス館 2016) ID12404
 『学校犬パティが教えてくれたこと』(吉田太郎著 金の星社 2016) ID12441
 『シリーズ戦争 語りつごうヒロシマ・ナガサキ 2 キノコ雲の下で起きたこと』(安斎育郎文・監修 新日本出版社 2015) ID13408
 『動物のちえ2 身を守るちえ』(成島悦雄監修 偕成社 2013) ID12407
 『さがして海ハカセ1 海の生きもののかま』(小林安雅文・写真 偕成社 2014) ID12405
 『さがして海ハカセ2 海の生きもののかくれんぼ』(小林安雅文・写真 偕成社 2014) ID12406

17年5月に入った大人の本

フィクション

『ゆらく玉の緒』(古井由吉著 新潮社 2017) ID17050
 『東京會館とわたし 下 新館』(辻村美月著 毎日新聞出版 2016) ID17043
 『コーヒーが冷めないうちに』(川口俊和著 サンマーク出版 2015) ID17054
 『夜の歌』(なかにし礼著 毎日新聞出版 2016) ID17049
 『長い時間をかけた人間の経験』(林京どうぶつに
 『処女たち』(イレーヌ・ネフロフスキー著 未知谷 2017) ID17058
 『人生の階段』(ジュリアン・バーンス著 新潮社 2017) ID17059
 『九月に 上・下』(ロザムンド・ピルチャー著 中村妙子訳 朝北社) ID17041、2
 『シェルシーカーズ 上・下』(ロザムンド・ピルチャー著 中村妙子訳 朝北社) ID17051、2
 『朝日歌壇 2016』(馬場あき子選 朝日新聞出版 2017) ID17056
 『朝日俳壇 2016』(稲畑汀子選 朝日新聞出版 2017) ID17057

『女むかしー君川みち子再話集』(君川みち子著 ほおすきの会 2015) ID17039
 『台湾世界遺産級案内ユネスコ番外地』(平野久

美子編著 中央公論新社 2017) ID17045
 『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』(帯木蓮生著 朝日新聞出版 2017) ID17053

マンガ

『サザエさん旅あるき』(長谷川町子著 毎日新聞出版 2016) ID17060

新書・文庫

『サイコパス』(中野信子著 文春新書) ID17046
 『あなたの人生の物語』(テッド・チャン著 ハヤカワ文庫) ID17044
 『風の名前 1、2』(パトリック・ロスファス著 ハヤカワ文庫 2017) ID17061,2
 『ポケットに物語を入れて』(角田光代著 小学館文庫 2017) ID17055※書評

寄贈・単行本

『浦上物語 改訂新版』(市川和広著 星雲社(発売) 2014) ID17040※著者より

.....

おかあさん、どの本を読んであげようか、迷ったら、どうぞ、階段わきのピンクのコーナーを探してください。色々な人のおすすめリストがありますよ。

落合さんの選んだ「心に効く!絵本たち」あなたにはどうでしょう? →

5月の別冊

今年はアートフェスタに参加しませんでした(参加費を本代にまわした方がいい?)
 でも、眠っている本を読んでほしくて・・・

私のおすすめ 静かな緑の中で読みたい本

選者: スタッフ (N・M・F・S・・・)

♥読んでみてください♥

表は別冊に・・・

落合恵子「絵本処方箋」の中からほんの1部を

『モチモチの木』★自分の弱さに腹が立ったら
 『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』★思いっきり笑いたかったら
 『紙しばい屋さん』★胸キュン!に出会いたかったら
 『としゃかんライオン』★窮屈すぎたら
 『かあさんから生まれたんだよ』★母さんが恋しかったら
 『旅の絵本』★どこか遠くへ行きたくなったら
 『にいさん』★自分を裏切りたくなかったら
 『まっくろネリノ!』★みんなと違うことがつらい時
 『くまどやまねこ』★あとに残された悲しみを・・・
 『なつよる』★子ども時代に帰りたいかったら
 『やかましい!』★怒りがたまってきたら
 『あおくとときいろちゃん』★親子って何だ?と
 『ぶたばあちゃん』★死という文字を前に・・・
 『どうぶつにふくをきせてはいけません』★袋小路から抜け出したかったら